

長浜子ども歌舞伎

寿二人三番叟

長浜三役歌舞伎

新版歌祭文 野崎村

久作住家の場
土手の場

ながはま 歌舞伎 発表会

令和六年
十二月一日

長浜文化芸術会館

〒526-0066 滋賀県長浜市大島町 37
電話 0749-63-7400

午前の部

開演 10時半

開場 10時

終演時間 12時半 予定

午後の部

開演 14時

開場 13時半

終演時間 16時 予定

ながはま歌舞伎の観劇について

長浜曳山まつりと曳山文化の保存伝承、情報発信と地域活性化を官民あげて取り組んでいる「長浜曳山まつり推進会議」への協賛二千円につき「ながはま歌舞伎」の招待券一枚をお渡しします。協賛についてのお問い合わせは曳山博物館までお電話、フックスまたはメールで御願います。

TEL 0749-65-3300 FAX 0749-65-3440
MAIL museum@nagahama-hikiyama.or.jp

主催：長浜曳山まつり推進会議

共催：長浜市



お問い合わせ



本事業は令和6年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)の補助を受けています。

長浜子ども歌舞伎

寿二人三番叟

寿式三番叟とは

能の「翁」を義太夫節にうつしたもので、五穀豊穡への祈りをあらわし、正月や特別な行事の際に、祝賀のために上演されます。
長浜曳山祭では、お目出度いとされる、壺番山で最初に演じられます。
今回は長浜曳山祭令和五年度、令和六年度三番叟役者の二人で、二人三番叟を披露します。

出演者

吉田 權 〔小学六年生〕

令和五年度長浜曳山祭三番叟役者

家倉 壯和 〔小学五年生〕

令和六年度長浜曳山祭三番叟役者

浄瑠璃 竹本 龍 豊太夫

竹本 美帆 賀太夫

竹本 展 太夫

三味線 豊澤 湊 祝

豊澤 和 賀

長浜三役歌舞伎

新版歌祭文 野崎村

久住住家の場
土手の場

あらすじ

もと相良丈太夫という武士の倅であった久松は、父を亡くし百姓久作の養子となって、大坂の「油屋」という質屋に丁稚奉公していました。この間に油屋の一人娘お染と恋におちますが、番頭の悪計から盗人の汚名をさせられて野崎村の実家に戻されます。
この久松と後妻の連れ子のお光を夫婦にしようという久作。お光は夢かとはかり喜び婚礼の支度にかかります。そこへ遙々大坂からお染が久松恋しさに訪ねて来ます。それと悟ったお光は嫉妬して、久作に灸を据えながら久松と喧嘩に。お染に気づいた久作はお光を奥へ連れ入る一方、命がけで恋を貫こうとするお染久松の短慮を戒めます。
歌祭文の「お夏清十郎」の悲恋を聞かされ納得して別れるという二人。喜ぶ久作は「善は急げ」とお光

出演者

百姓 久作 岩井 小紫八

娘 お光 岩井 紫をり

母 おさよ 堤 園子

油屋丁稚 久松 山口 奏

油屋下女 およし 平田 富記子

駕昇 甚八 桐山 恵行

々 作兵衛 藤森 茂樹

船頭 権六 中川 凌

油屋娘 お染 山根 加織

油屋母 お常 岩井 紫麻

と祝言させようと連れて来ますが、お光はすでに髪を切り袈裟を纏った尼姿。驚嘆する久作に、二人は心中する覚悟と見抜き自分は身を引くより道はないと語るお光。
義理と人情と恩愛に絡まれ一同涙にくれていると、そこにお染を案じて追ってきた油屋の後家お常が現れます。お光の健気な志に感謝し、病人の見舞いと尼子へ布施と差し出した金は久作が久松の濡れ衣に對し立て替えたものでした。世間の手前とお光への遠慮から、お染母娘は船、久松は堤を籠と別々に大坂へと帰って行くのでした。氣丈に見送るお光も、久作と二人になると心の張りが切れ、父の胸に取りすがり泣き崩れるのでした。

浄瑠璃 竹本 賀桐太夫

三味線 豊澤 龍 三

浄瑠璃 竹本 龍 豊太夫

三味線 豊澤 賀 祝

振付・演出 岩井 小紫